



TITLE:

観測部總報(1): 観測部員の略記號 の統一制定に就いて

AUTHOR(S):

木邊, 成麿

CITATION:

木邊, 成麿. 観測部總報(1): 観測部員の略記號の統一制定に就いて. 天界
1941, 21(242): 255-257

ISSUE DATE:

1941-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168234>

RIGHT:

星をいふ。

nisat-sa-ot, nisat-sa-ot-kamui (久保寺氏) 同氏は nisat(曉)-sa(低く)-ot(かゝる)-kamui(神)であらうと註されてゐる。因みに、この種の -sa は、屢々 sha とも發音され、轉訛して cha ともなるといふ。

6. 宵の明星 キンマチスルグル

アロヌマン・ノチウ, アロ・ノチウ (パチュラ氏)

チコアッ・ノチウ (金田一氏)

ar-onuman (夕, 日暮) nochiu (星) の意。チコアッは原意不明である。尙ほ、久保寺氏はアロ・ノチウのアロを恐らくアロヌマンの訛りであらうとされてゐる。(つゞく)

觀測部總報 (1)

觀測部員の略記號の統一制定に就いて

觀測部長 木邊成廣

今回、當會觀測部に於て、觀測部全員(一般會員も多少含めて)の略記號(ロマ字)を制定した。其の理由は、今迄の觀測發表に當つては、各課で之を其の都度任意に定めて居たから、同一人でも課が異れば符號も異り、時には同一課内に於ても、發表の都度に依つて變化した場合すら散見されたからである。従つて、此の不統一を避けるべく、今後の各課の發表は、今回制定の略號を使用する事に定める。但し、一言斷つて置かねばならないのは、此の略號は、單に本會觀測部の觀測發表上に使用するために制定したものであつて、其の個人其のものの表示をする意圖は無い事である。其れと云ふのも、實は 200 名近い姓名を重複なしに 2 字で表示するのは(最大 676 名可能だが)或る種の姓では困難であつた。其の爲め、今まで度々使用されて居る觀測者略號を優先的に採用した以外は、偶然名簿を拾つた順に一應、姓名から 2 字撰んだ。所が前言した様に、K, M, N, S, T, Y の頭文字は甚だ多いのに反して、B, C, D, G, J, L, P, Q, R, V, X, Z は僅少乃至絶無であり、又、中間文字としても c, f, j, l, p, q, v, x が同様である。此の様な事實からして、重複を避けるべく 3 字略號にするか、或は、多少感じは失ふが、上述の字を使用して 2 字に攝めてしまふかの二途が考へられたのである。所で 3 字の場合には、成程、其の個人の姓名を略示する感じは優つて居ても、其れだけに、個有名詞の略號としての性格が強く、云はば當事者が勝手に定める事は多少行き過ぎになるかも知れないのと、(現に國名、

地名等に於て、世界共通の略號として使用されて居る例が多い)印刷の場合、日本字1字分としては取扱へない等の理由から、後者の方法を採用したのである。其の爲にKをC, Qに, YをJ, TをCに代用するとか、又、f, x等の中間文字の使用も生じたのである。従つて、人によつては、多少面白くもない略號になつて居る方も、如上の理由と此の符號が、全く觀測上のものである所から諒としていたゞき度い。猶ほ又、何々學校内の天文の會と云ふ様なものは、觀測部員として部費收納の點からは名簿にあつても、觀測そのものは、個人の責任に於てさるべきであると云ふ立前へから省略した。従つて、かゝる會合内に在つて觀測される人は、機會を見て、觀測者の姓名を報告して欲しい。

さて次に決定した略號と姓名を表示するが、中には部費を収めながら名簿洩れになつた人とか、又今後の新人部員、新報告者は、現住と姓名に振假名をして部長宛に通知されるとか、或は各課の課長を通じて報知されるとかされ度い。其上で、年に2~3回追加發表をする。最後に、此の部内共通の略號の制定と運用に關しては、各課の課長、幹事の協力と責任を特に要望して置く。

(昭和16年五月5日記)

Ab 阿部 正明(東京)	He 廣瀬永治郎(岐阜縣)	Kb 木邊 成麿(滋賀縣)
Ad 足立 富男(廣島)	Hg 樋上 敏一(東京)	Kc 木村 直樹(和歌山)
Ai 青木 章(大阪)	Hh 橋田 義壽(大連)	Kd 金田伊三吉(石川縣)
Ak 荒木 九皐(天津)	Hi 樋口 操(大阪)	Ke 龜井 壽彦(京都)
Ao 青井 秀生(名古屋)	Hk 堀 幸一(京都)	Kf 神田 利彦(東京)
As 淺井 正雄(横濱)	Hm 古畑 正秋(東京)	Kh 改發 香塙(神戸)
At 安達 寛(京都)	Hn 星 野 實(東京)	Ki 小 泉 功(兵庫縣)
Az 秋澤 保(高知)	Ho 堀井 政三(大津)	Kj 梶 川 勝(和歌山)
Co 小森 幸正(甲府)	Hr 服 部 博(東京)	Kk 香掛 七二(長野縣)
Cs 神屋 信一(ブラジル)	Hs 林 克 巳(和歌山縣)	Kl 百濟 敏猷(大阪)
Da 醍 醐 正(横濱)	Ht 堀田 泰生(横濱)	Km 金森 丁壽(長野縣)
Dt 伊達英太郎(兵庫縣)	Hw 長谷川 寛(京都)	Kn 金崎 常和(福岡縣)
Eg 江 川 義(千葉縣)	Hy 林 謙(東京)	Ko 小横孝二郎(和歌山縣)
Em 江上 欽已(東京)	Hz 保積善太郎(東京)	Kp 小横 和枝(和歌山縣)
En 江 夏 弘(宮崎)	Id 和泉 三思(臺北)	Kq 北村 金造(西宮)
Et 惠藤 一郎(山口)	Ii 今井 正治(東京)	Kr 來 田 晃(大阪)
Fh 降旗 常雄(新京)	Ik 幾島 五郎(大阪)	Ks 小横 茂代(和歌山縣)
Fj 藤井 守一(京都)	Im 井 本 進(兵庫縣)	Kt 河端 定惠(愛媛縣)
Fk 古川 一夫(和歌山縣)	In 稻垣 武五(東京)	Ku 栗原 正雄(東京)
Fm 福本 秀生(大阪)	Is 石山 基雅(京都)	Kw 川 人 武正(香川縣)
Fn 福永 嘉彦(徳島)	It 伊秩 清親(宇都宮)	Kx 神田 臺雄(神戸)
Fu 船津住三郎(東京)	Iw 岩田與三郎(大阪)	Ky 清野 哲男(山形縣)
Fy 古屋 四郎(甲府)	Iy 飯 義 壽(今治)	Kz 小澤 喜一(名古屋)
Go 五藤 齋三(東京)	Iz 今 津 續(大阪)	Li 李 源 詰(京城)
Ha 秦 武彦(東京)	Js 吉田 珠貴(大連)	Ma 三 宅 彰(東京)
Hd 本 田 實(倉敷)	Ka 河合 孝一(大連)	Mb 松本 武男(臺灣)

Md 松本 太三(京都)	Oc 大口 周作(大阪府)	Ti 高杉 重春(東京)
Mg 松本 義一(尾道)	Og 大禰喜八郎(岐阜縣)	Tk 高城 武夫(大阪)
Mh 前田 治久(京都)	Oi 大石 辰次(静岡)	Tm 富田弘一郎(東京)
Mi 三宅 和夫(東京)	Ok 沖 靜 子(鹿兒島)	Tn 津野田誠吾(中華民國)
Mk 村澤 藤作(金澤)	Om 岡村 清次(和歌山縣)	To 遠山潤二郎(東京)
Mm 正村 一忠(岐阜)	Ot 太 田 彬(東京)	Tq 竹 谷 實(兵庫縣)
Mn 南 時 生(大阪府)	Ow 小川 清雄(東京)	Tr 津留 繁雄(熊本)
Mo 松 尾 進(大阪)	Qb 木邊 村子(滋賀縣)	Ts 田代 義光(東京)
Mq 森 下 功(福島縣)	Qk 小石久太郎(東京)	Tt 高橋 利繁(北海道)
Mr 森 龍太郎(浦和)	Qm 熊田 儀助(ハワイ)	Tu 竹 内 潤(大阪)
Ms 森安 千秋(島根縣)	Qn 木下 實二(宮崎縣)	Ty 玉置 彌榮(東京)
Mt 美田 爲三(神戸)	Qw 河原崎俊男(京都府)	Un 宇野 良雄(京都)
Mu 宗田 順二(大阪)	Sa 荻 部 進(神戸)	Ut 宇都宮秀夫(下關)
Mw 森川 鉦二(名古屋)	Sb 荻部 守子(神戸)	Wb 渡邊 由雄(東京)
My 水谷秀三郎(下關)	Sd 角田 清彦(北京)	Wk 渡木 慶雄(宮崎)
Mz 宮 澤 堂(京都)	Se 笹部 榮一(ボンベイ)	Wn 渡 邊 栗(東京)
Na 中 村 覺(滋賀縣)	Sg 菅野 常吉(東京)	Wt 渡邊 恒夫(大阪)
Nb 野口登美雄(大阪)	Sh 芝原 鏑一(名古屋)	Ya 山本 貞幹(東京)
Ng 中川登代雄(東京)	Si 齋藤 雄一(長野縣)	Yc 山口 善造(大津)
Nh 西川 英男(大阪)	Sk 坂部 博一(京都)	Yd 山田 達雄(愛知縣)
Ni 西澤 健三(高知)	Sl 鈴木 春海(東京)	Yg 山形 武夫(大阪)
Nj 中島 正雄(大阪)	Sm 清水 眞一(静岡縣)	Yh 山本 英子(滋賀縣)
Nk 西川 正男(大阪府)	Sn 清水 直次(京都)	Yi 吉池 浩暢(長野縣)
Nm 西村繁次郎(京都)	So 佐 藤 晃(東京)	Yk 山崎 勝三(東京)
Nn 中 野 繁(東京)	Sq 佐藤 晃一(神戸)	Ym 山本 一清(滋賀縣)
No 西尾 利夫(大阪)	Sr 齋藤 馨兒(東京)	Yn 山根 平三(東京)
Nq 西岡 勝明(愛媛縣)	Ss 蔡 章 猷(臺北)	Yo 吉井 章五(廣島縣)
Nr 西森紀久雄(大阪)	St 柴田 通三(京都)	Yq 山田 清照(北海道)
Ns 西元 誠治(鹿兒島)	Su 坂 上 務(鹿兒島)	Ys 吉井 耕一(廣島縣)
Nt 内藤 一男(前橋)	Sy 須山 正躬(東京)	Yt 山下 政一(大阪)
Nu 野村 秋馬(和歌山)	Sz 清水 和幸(倉敷)	Yu 山 本 進(滋賀縣)
Nw 中澤 義明(大阪府)	Ta 多木 文爾(兵庫縣)	Yx 山田 才吉(瀬戸)
Ny 長瀨 佳雄(旅順)	Tc 谷口 道夫(東京)	Yy 山田 勇次(東京)
Nz 中 澤 登(長野縣)	Te 寺 田 博(大阪)	Yz 山崎 幸夫(大阪)
Oa 大窪 文秀(ブラジル)	Tg 谷口 裕康(東京)	
Ob 岡林 滋樹(神戸)	Th 高橋左右平(東京)	

以上第一次發表者 148 名。

註 () 内は居住都市を示す。郡部居住者は縣名のみ記入した。

水野千里氏逝く

本會の前副會長名譽會員水野千里氏は、永く病氣のところ、去る六月26日岡山市の自宅に於いて遂に逝去された。哀悼に堪えない。本誌は近く同氏のために紀念號を出したいと思ふので、會員一般より原稿を募る。水野氏を知る人士は、奮つて御投稿下さい。(編輯)